

# 刀と鮫皮さめかわの関係

3月19日(土)～5月29日(日)の期間、備前おさふね刀剣の里 備前長船刀剣博物館では瀬戸内市誕生記念特別展として、「日本刀の美」を開催しています。その展示品の中に「献上鮫皮 大・小」があります。「献上鮫」とは江戸時代の大名が將軍家へ献上する鮫の皮のことです。

く鮫皮の取れる魚類のことで、刀の柄や鞘の部分にはサメかエイの背中の皮が巻かれており、これを「鮫皮」といいます。

鮫皮は長崎に輸入されると、將軍家御用を取ったあと、競売に付せられました。それを鮫屋が買い取り、極上品は原形のまま洗い上げて、2尺(約60・6寸)ほどの中高の板に巻きつけ、それにさらに錦や金襴などで飾りをつけたものを將軍家に献上しました。

献上鮫は飾り鮫ともいい、大名間の贈答品にも用いられました。



献上鮫皮大・小

「鮫」には魚類学上でいうサメ(鮫)のほか、エ

イ(鱧・鰻)も含まれ、エイの方が珍重されました。それらはいずれも東南アジア産で、南日本で捕れるアカエイに似ていました。南方各地から輸入されたものを、一括して真鮫と呼んでいました。

鮫皮は刀装の必需品でした。そのため、日本全国の需要をまかないきれず、輸入業者の競争が厳しくなり、輸入価格が高騰しました。その弊害を防ぐために、長崎奉行は「市法売買法」を制定。その結果、鮫皮を輸入できたのは、長崎の鮫屋43人だけで、金額も1回の総額(銀148貫5匁2分1厘)が制限されました。全国の鮫屋は長崎の鮫屋43人から購入するしかありませんでした。購入にあたっては、「鮫屋から任命された「鮫目利き」という人たちが、良否の判定、等級を決めていたそうです。

古くから中国で行われていた。正倉院御物の金銀細工唐大刀にその実例を見る事ができます。柄に着色するため、鮫皮を白くさらし、薄くはいでから柄を覆います。さらに、室町末期ごろになると、血や雨に濡れたときに水分を吸ってはげ落ちることを防ぐために、鮫皮に黒漆をかけていました。(この特別展の展示品「天正拵」を見てください。鮫皮が真っ黒です)

鮫皮が刀の柄に使われた理由には、鮫皮を着せることで柄の補強ができ、柄糸(組ひも)がずれないという利点があげられます。また、柄を握ったときに手が滑らないためでもありません。しかし、その白い粒子が真珠にも似た美しさのため多く使われるようになったとも推測されています。

柄鮫は、出し鮫柄(鮫皮を着せただけで、柄糸で巻かない柄)でなくても、柄糸の間から粒の状態が分かるので、上等のものが選ばれました。それにはまず粒が緩みなく、一直線に配列よく並んでいることが大切でした。柄に鮫皮を着せ、柄糸を巻いたときに、

柄糸で作られた菱形の隙間から粒が一つずつ出ていることが良いとされました。

しかし、質のよい鮫皮は1匹から1枚しか取れません。エイの背中の真中に大きな粒の並んでいる所があり、ここを粒所といいます。粒所のうちで最も大きい粒を親粒・一の粒・長者粒などと呼びます。厳密には親粒より下を粒所と呼びます。粒のなかでも特に親粒が珍重されました。

鮫皮は当時非常に高価なものでしたが、武士たちは競って上等なものを使いました。武士たちは、親粒の大きさ、形状、具合などを自慢にし、それを見せたいために柄糸で作られる菱形の隙間を大きくしていました。

参考(年代順)  
小窪健一 1971 『図鑑 刀装のすべて』 光芸出版  
福永醉剣 1993 『日本刀大百科事典(全5巻)』 雄山閣出版  
小笠原信夫 1994 『日本の美術1日本刀の拵』 至文堂

# ジャンプ ステップ ホップ

このコーナーは、生涯学習や生涯スポーツに生き生きと取り組む皆さんを紹介します。皆さんも仲間入りしませんか。

## みんなでひとつに美しく

### 「白峰銭太鼓」

牛窓町公民館登録グループの白峰銭太鼓の皆さんは、週4回、気の合った仲間たちと銭太鼓の練習をしています。年に新曲を3・4曲覚え、文化祭などで披露します。今は8月に開催される門下生発表会を目指して、新曲をマスターし練習に励んでいます。

「右手と左手で銭太鼓の回し方が違ったり、団体競技なので皆で息を合わせたりするのは難しいけど、できたときの達成感や休憩中も円を作り、みんなで会話も弾みます。

音楽に合わせて、銭太鼓を回したり叩いたり、軽快な銭太鼓の音がとてもリズムミカルです。

- ★講師 近藤峰子さん
- ★活動日 第1水曜日 午後7時～8時30分、第2・4土曜日 午後1時30分～3時、第3土曜日 午後2時～3時30分
- ★会員数 13人
- ★会費 月1、500円



気のあった仲間でする銭太鼓は、息もぴったり

## 世代と地域超えた陸上競技クラブ「ゆめりくクラブ」



会員の皆さんは、元気いっぱい体を動かし、生き生きとした表情で活動を続けています

ゆめりくクラブでは現在、小学1年生から大人までの140人が活動しています。陸上競技を通して、会員相互の親睦と競技力のレベルアップを図り、楽しく運動に親しむこと、幅広い年齢層の皆さんとふれあい、人間性を高め、豊かな人生を送ることがねらいです。

4月2日、会員の皆さんは体操や馬跳びなどで体をほぐし、50メートル走・立幅跳などで体力測定をしました。市内の小・中・高校の先生や市外に転勤した先生、邑久中陸上部OBの皆さんが指導に当たります。会員の皆さんは、

「3年目を迎えたゆめりくクラブ。一人ひとりが目標を持って、夢に向かって頑張っ

てほしい」と本郷勇次会長。入会3年目の吉田弘樹君(玉津小3年)は、「友達もいっぱいできたし、走るのは楽しい」と話していました。

★活動日 毎月第1土曜日 午前9時～11時30分  
邑久中学校グラウンド

■問い合わせ先  
ゆめりくクラブ事務局  
小引さん ☎090-8999-6019

★代表者 森本邦子さん  
☎341-3023